

# みずほマーケット・トピック(2020年8月7日)

## 週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料  
 ※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

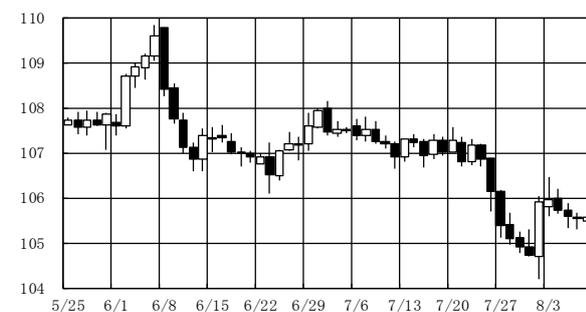
### 1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場はドル安が継続する展開。週初 3 日 105 円台後半でオープンしたドル/円は日系企業による大口買収報道も後押しして仲値にかけて上昇し、一時 106 円を上抜けた。米国時間には米金利の上昇にサポートされて、一時週高値の 106.47 円までじりじりと上昇した。4 日は先週末からのドルの買い戻しが一服し、106 円付近での小幅な推移となった。その後は対ユーロのドル売りが重しとなり、徐々に反落。米金利の低下が続き、金価格の上昇もあいまって、ドル全面安の展開となり、105 円台後半での取引となった。5 日は、引き続き上値の重い推移となったが、原油高・米株高を背景に小幅に値を戻した。米国時間では、米 7 月 ADP 雇用統計の結果が予想を大幅に下回ったことで、一時 105 円前半まで下落した。6 日は、105 円台半ばの狭いレンジでの値動きが続いたが、米国での追加経済政策を巡る議会協議の先行き不透明感が強まる中、一時週安値の 105.31 円をつけた。本日は 105 円台半ばでの値動きとなっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は、週後半にかけて上昇する展開。週初 3 日、1.17 円前半でオープンしたユーロ/ドルは、7 月ユーロ圏の製造業 PMI が上方修正されたものの、一時週安値の 1.1695 まで下落。その後は、ユーロがじりじりと買い戻される展開となり、1.17 円を回復した。4 日は、ユーロ圏 6 月 PPI の結果が好感されて一時 1.18 を上抜けた。その後はドルの買い戻しを受けて 1.17 円前半まで下落するも、米金利低下・金価格上昇を受けてドル全面安の展開となる中、後半にかけて再度 1.18 円をつけた。5 日は、欧州株の堅調推移を受けて上昇するユーロ/円の上昇や、ドル全面安の流れにサポートされ、1.18 円を底堅く推移。米 7 月 ADP 雇用統計の結果が予想を下回り、ドル売り圧力が強まると、1.19 を上抜けた。しかし、その後は手掛かり材料が乏しい中、利益確定の売りによって 1.18 円半ばまで反落した。6 日は独 6 月製造業受注が予想を大幅に上回り 1.19 円を回復し、一時 1.1916 をつけ、年初来高値を更新した。その後前日同様、利益確定の売りが入り下落した局面もあったが堅調な推移が続いた。本日は 1.18 円後半での取引となっている。

### 今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		今 週				
		7/31(Fri)	8/3(Mon)	8/4(Tue)	8/5(Wed)	8/6(Thu)
ドル/円	東京9:00	104.70	105.85	106.03	105.63	105.57
	High	106.05	106.47	106.19	105.87	105.69
	Low	104.20	105.58	105.64	105.33	105.31
	NY 17:00	105.92	105.96	105.72	105.60	105.54
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1872	1.1782	1.1761	1.1814	1.1871
	High	1.1908	1.1796	1.1806	1.1905	1.1916
	Low	1.1763	1.1695	1.1722	1.1793	1.1818
	NY 17:00	1.1776	1.1763	1.1803	1.1864	1.1877
ユーロ/円	東京9:00	124.20	124.67	124.69	124.76	125.38
	High	125.20	125.03	125.00	125.52	125.58
	Low	123.86	124.00	124.28	124.66	124.68
	NY 17:00	124.69	124.64	124.79	125.27	125.37
日経平均株価	21,710.00	22,195.38	22,573.66	22,514.85	22,418.15	
TOPIX	1,496.06	1,522.64	1,555.26	1,554.71	1,549.88	
NYダウ工業株30種平均	26,428.32	26,664.40	26,828.47	27,201.52	27,386.98	
NASDAQ	10,745.28	10,902.80	10,941.17	10,998.40	11,108.07	
日本10年債	0.01%	0.02%	0.01%	0.01%	0.01%	
米国10年債	0.53%	0.55%	0.51%	0.55%	0.54%	
原油価格(WTI)	40.27	41.01	41.70	42.19	41.95	
金(NY)	1,985.90	1,986.30	2,021.00	2,049.30	2,069.40	

### ドル/円相場の動向



### ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- 米国では、今晚7日(金)に7月雇用統計が発表される。前回6月の非農業部門雇用者数は前月比+480万人増と市場予想(同+320万人)を上回った。また、民間部門雇用者数は同+477万人増となった。内訳を見ると、新型コロナウイルスの感染拡大によるロックダウンの影響を大きく受けた業種での改善が目立っており、娯楽・接客サービス業の雇用が同+210万人の増加、小売業は同+74.0万人の増加を記録した。その他、製造業においても同+35.6万人の増加を記録するなど幅広い業種で雇用の拡大が見られた。失業率に関しては、6月の結果は11.1%と前回5月から2.1%ポイント低下した。5月に続いて2か月連続での改善となり、米国で新型コロナウイルス感染が拡大した時点で一時的に職を失った層が段階的に労働市場に戻りつつあることを示唆する結果となった。一方、平均時給の伸びは前月比▲1.2%と市場予想の同▲0.8%を下回った。前述の通り、雇用の増加が娯楽・サービス業といった比較的賃金の低い業種で目立ったことが要因となっており、平均賃金が下押しされた結果となった。米国の労働市場は4月を底にV字回復基調となりつつあるものの、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響で飲食・サービス業をはじめ企業活動が制限されている業種が見られるなど、今後の雇用情勢について先行き不透明感が浮上りつつある。なお、ブルームバーグの予想では、7月の非農業部門雇用者増加数を前年比148万人の増加と上昇ペースが鈍化すると見込んでおり、失業率については同10.6%と小幅な改善を見込む。一方、7月平均時給は前月比▲0.5%と引き続き小幅な悪化を見込んでいる。そのほか、中銀関連では12日(水)にデイリー・サンフランシスコ連銀総裁、ローゼングレン・ボストン連銀総裁が講演を予定しており、13日(木)にはデイリー・サンフランシスコ連銀総裁が講演を予定している。

	本 邦	海 外
8月7日(金)	・6月景気動向指数(速報)	・米7月雇用統計
10日(月)	・祝日	・ユーロ圏8月センチックス投資家信頼感
11日(火)	・6月経常収支	・米7月NFIB中小企業楽観指数 ・独8月ZEW景況感指数
12日(水)	・7月工作機械受注(速報)	・米7月CPI ・英4~6月期GDP(速報) ・ユーロ圏6月鉱工業生産
13日(木)	・7月国内企業物価指数	・米7月輸出・輸入物価指数
14日(金)	・6月第3次産業活動指数	・米7月小売売上高(速報) ・米7月鉱工業生産 ・米8月ミシガン大学消費者マインド(速報) ・ユーロ圏4~6月期GDP(速報) ・ユーロ圏6月貿易収支

### 【当面の主要行事日程(2020年8月~)】

ECB 政策理事会 (9月10日、10月29日、12月10日)  
 米 FOMC (9月15~16日、11月4~5日、12月15~16日)  
 日銀金融政策決定会合 (9月16~17日、10月28~29日、12月17~18日)  
 G20 財務相・中央銀行総裁会合(10月15~16日)

市場営業部・金融市場部  
 チーフマーケット・エコノミスト  
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)  
[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) [http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ\\_backnumber.html](http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html)

発行年月日	過去6か月のタイトル
2020年8月4日	米製造業マインドよりも心配な米消費者マインド
2020年8月3日	「ユーロにあって円に無いもの」～基軸通貨性を考える～
2020年7月31日	週末版
2020年7月28日	「ドル売りの受け皿」がテーマ～過去最大の欧米逆転～
2020年7月27日	ユーロ上昇の理由～金利差縮小よりドル過剰感～
2020年7月22日	週末版
2020年7月21日	欧州銀行の貸出態度調査～ロックダウンの深手～
2020年7月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年6月分)
	臨時EU首脳会議で透けて見えた「第三の亀裂」
2020年7月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～PEPPは使い切り、「2つの機能」に向けて～)
2020年7月16日	ユーロ相場の近況について～上昇の瀬戸際～
2020年7月15日	臨時EU首脳会議～交錯する「2人の議長」～
2020年7月14日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2020年7月13日	ECBプレビュー～ラガルドインタビューは現状維持を示唆～
2020年7月10日	週末版
2020年7月9日	カレンシーボードに迫る脅威～米国の「諸刃の剣」～
2020年7月8日	増枠分の天井に近づいたECBの拡大資産購入プログラム(APP)
2020年7月7日	対外直接投資はこれからも増えるのか？
2020年7月3日	週末版(明らかになる「物価差なき世界」～金利と共に失われる為替の変動要因～)
2020年7月2日	金価格が上がっている理由～リスクオフという方便～
2020年7月1日	円相場の需給環境～ストック円高、フロー円安～
2020年6月26日	週末版(IMF、GFSR改訂を受けて～「実力以上の株価」という必要悪～)
2020年6月25日	ユーロ相場はなぜ堅調なのか？
2020年6月23日	メルケル首相に託されたEU復興基金の先行き
2020年6月22日	ECB、「真のバズーカ」と「影の政策金利」
2020年6月19日	週末版
2020年6月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年5月分)
	香港ドル相場の現状と展望～ベッグ崩壊の現実的な可能性は～
2020年6月17日	二番底はメインシナリオの1つとして見るべきか
2020年6月15日	29年連続「世界最大の対外純資産国」の読み解き方
2020年6月12日	週末版(EU首脳会議プレビュー～メルケル首相への花道論も～)
2020年6月11日	FOMCを終えて～当分失われそうなるドル/円のボラティリティ～
2020年6月9日	米国はいずれ通貨政策に訴えかけるのか？～特権の行使～
2020年6月8日	金利上昇を容認したFRBと視野に入るYCC
2020年6月5日	週末版(ECB政策理事会を終えて～2022年末までバランスシート残高は高止まり～)
2020年6月4日	明らかにされたパンデミック緊急資産購入プログラムの全貌
2020年6月3日	米個人消費・所得、急変動に透けて見える日本化の胎動
2020年5月29日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～PEPPに孕む隠蔽リスク～)
2020年5月27日	最近の元安・ドル高相場の読み方
2020年5月26日	IMF「国際金融安定報告」続報から読み取れるもの
2020年5月22日	週末版(EU復興基金設立の現状と展望～立ちはだかる「新ハンザ同盟」の壁～)
2020年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年4月分)
	コロナショックは反グローバルの「とどめ」なのか？
2020年5月19日	アフターコロナの世界で定着しそうな「皮肉な株高」
2020年5月15日	週末版(マイナス金利を正当化したECB論文～「次の一手」としての深掘りを予見させるものか？～)
2020年5月14日	不安を吐露したパウエル議長とマイナス金利の足音
2020年5月12日	独憲法裁判所の判断とECB買い入れ近況について
2020年5月8日	アフターコロナはインフレか？デフレか？
2020年5月7日	アフターコロナで注目したい世界の「日本化」兆候
2020年5月1日	週末版(ECB政策理事会を終えて～形骸化する政策金利と「次の一手」～)
2020年4月28日	日銀金融政策決定会合を受けて～同調圧力への対応～
2020年4月24日	週末版(原油急落に感じる株・為替市場との差異～原油に「ごまかし」は効かず～)
2020年4月22日	拡張財政と「ドルの信認」～目先の下落は濃厚か？～
2020年4月21日	資本逃避スピードはリーマンショックの倍に～IMF報告～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年3月分)
2020年4月17日	週末版(「The Great Lockdown」で最も傷が深いのは欧州か？～IMF世界経済見通し～)
2020年4月15日	ECBの「次の一手」はYCCも視野に～工夫も必要～
2020年4月14日	「超リスクオフ」から「リスクオフ」へ～改めて米金利を意識へ～
2020年4月10日	週末版(明らかになったECB資産購入の実情～このペースではあと半年が限度～)
2020年4月9日	英国のEU離脱はどこへ～移行期間は延長不可避の情勢～
2020年4月7日	「金利差なき世界」のあるべき視座～big picture～
2020年4月6日	「悲観の極み」の中で「光」をどう見出すべきか
2020年4月3日	週末版(「令和元年度 企業行動に関するアンケート調査」を受けて～かすかに暗雲漂う円相場～)
2020年4月2日	今でも「危機対応のフロントランナー」の日銀
2020年4月1日	過去最大のスタートダッシュを切ったECB
2020年3月30日	ドル高の裏にある新興国通貨安～半分はメキシコ由来～
2020年3月27日	週末版(EUが直面する「第三の危機」～債務・難民そして疫病へ～)
2020年3月26日	EUに楔を打ち込む中国～マスク外交と侮れず～
2020年3月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年2月分)
	リスクシナリオも練り直し～日米金利差逆転というリスク～
2020年3月24日	「ドル化する世界」と新興国通貨の選別
2020年3月23日	「08年型のドル高」と円の「2大ステータス」
2020年3月19日	週末版(踏み込んだECB、パンデミック緊急資産購入プログラム～「抜かずの宝刀」も抜かれるのか？～)
2020年3月18日	FOMCプレビュー～「不要不急で自滅」は予定通り？～
2020年3月17日	ECB政策理事会プレビュー～胆力と失望の狭間～
2020年3月13日	週末版
2020年3月11日	ECB政策理事会プレビュー～実質的なデビュー戦～
2020年3月10日	日銀の「次の一手」を考える～GPIFとの共同戦線は？～
2020年3月9日	ドル安相場の当然の帰結～疫病は契機に過ぎず～
2020年3月6日	週末版
2020年3月5日	欧州難民危機再び？～「見えない脅威」と「見える脅威」～
2020年3月4日	不要不急の利下げで自滅したFRB
2020年3月3日	各国政府・中銀の政策協調姿勢を受けて
2020年3月2日	最強通貨に振り返った円～年初来変化率がプラスに～
2020年2月28日	週末版(メインシナリオに関するリスク点検～疫病リスク、米利下げ、円高～)
2020年2月27日	健在だった「安全資産としての円買い」と加速する悲観
2020年2月21日	週末版(忌避されるユーロ～通貨安政策として先鋭化するマイナス金利政策～)
2020年2月20日	円急落は「日本売り」の結果なのか？
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年1月分)
2020年2月19日	危機モードが続く為替市場と無国籍通貨「金」の上昇